慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　1回20日発行

三四会ホームページ

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時　午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（33353）1211（大代表）

第27回 慶應医学賞授賞式・受賞記念講演会開催

慶應医学賞は1996年から始まった慶應義塾医学振興基金の主要事業の1つである。今年ノーベル生理学・医学賞を受賞したペーボ博士（第21回慶應医学賞受賞）を含め、これまでに本賞受賞者からノーベル賞受賞者を9名輩出しており、国内外からの注目は大きい。

令和4年11月28日、第27回慶應医学賞受賞者であるカールH.ジューン博士（ペンシルバニア大学医学部教授（米国））、河岡義裕博士（国立国際医療研究センター研究所国際ウイルス感染症研究センター長・東京大学医科学研究所特任教授）を信濃町キャンパスに迎え、慶應医学賞授賞式および受賞記念講演会、記念レセプションが開催された。海外受賞者を北里講堂にお迎えできたのは令和元年以来、実に3年振りのこととなった。感染症拡大防止対策のもと会場には限られた参列者のみでの開催となったが、その様子は同時配信され、世界中のオンライン参加者にご視聴いただいた。なお、本年より医学賞式典の進行は英語で執り行うこととした。

同日午前中には式典に先立ち、医学部学生アンバサダーによる受賞者インタビューと受賞者との昼食会が行われた。アンバサダーの堂々とした対応は、慶應医学部生の高い国際性とホスピタリティーをアピールすることとなり、受賞者も大いに感心されていた。

授賞式は慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラの演奏により来場者をお迎えするなか、金子祐子教授の司会進行により開会された。先ず、塩見春彦審査委員長から審査報告と受賞者紹介があった。ジューン博士は「新しい免疫治療戦略としてのCAR-T細胞療法の開発 Development of CAR-T Cell Therapy as a Novel Immunotherapeutic Strategy」によって、河岡博士は「パンデミック感染症の制圧を目指したウイルス病原性の解明 Understanding Viral Pathogenicity for the Control of Pandemic Infectious Diseases」によって、審査委員13名と学内外89名の専門家による厳正な審査を経て選出されたことが報告された。

続いて伊藤公平塾長から両博士に賞状とメダル、賞金の目録が授与された。伊藤塾長は両博士の功績を称え、この賞の意義について「これを受賞する人の名誉であると同時に、慶應義塾にとっても大変名誉である」と語った。

また、来賓として文部科学省から粟和生文部科学副大臣、米国大使館よりレイモンドF.グリーン首席公使より祝辞が述べられた。

続いて受賞者からのご挨拶をいただいた。ジューン博士より、CAR-T細胞療法が、今や人類の死因の第一位となっている悪性腫瘍の免疫治療法として臨床確立されていること、そしてその効果は持続的であり、様々な病気に対する治療法として展開が進められていることが述べられた。またこの細胞療法の科学的起源を最初に発見したのは日本の研究室であり、基礎医学研究の重要性を説かれた。最後に、同伴された夫人のリサ・スパイカー博士、ご家族、そして治験に協力してくれた多くの患者さんへ感謝の言葉があった。

次に河岡博士からのご挨拶では、研究室のメンバー、恩師、そして共同研究者のサポートに感謝の意が述べられた。本賞受賞は研究に携わったすべての人に対するものであることが謙虚に語られた。また研究者の自分を理解し、献身的に支えてくれたご家族に感謝のお言葉があった。最後に「サイエンスを追求できることは、素晴らしいことであり、何か新しいことを発見するよりもエキサイティングなことはそうないScience is a great career and there are few things more exciting than discovering something new.」と締めくくられた。

受賞記念講演会は、金井隆典医学部長による挨拶から始まった。両博士の貴重な講演を聴くため世界中から多くの参加者よりオンライン視聴をいただいた。Q&Aセッションでは、研究者、教員、学生からの積極的な質問があり活発なものとなった。

夜には記念レセプションが執り行われた。久保田義顕教授による司会進行のもと、北川雄光常任理事により開会の挨拶が述べられた。次に、学外審査委員である高橋淑子京都大学教授による祝杯の挨拶を皮切りに、両受賞者を囲んでの食事会（着席スタイル）が和やかに進行した。記念品贈呈の際は金井医学部長によるウィットに富んだ挨拶があり、両博士との親交をさらに深めた。

久々に信濃町キャンパスに両受賞者を会場にお迎えし、その温かい人となりに触れることができ、対面で会うことの重要性を改めて感じられる式典であった。

義塾賞を受賞して

三村　將（63回）

このたび「精神疾患の病態解明と治療に関する革新的技法の創出」に関する業績で義塾賞を受賞いたしました。医学部を代表して、このような栄誉ある賞をいただくことができたことを大変光栄に思っています。伊藤公平塾長、金井隆典医学部長をはじめ、関係者の方々に心から御礼申し上げます。

私はこれまで一貫して脳とこころ、あるいは精神医学と神経科学の橋渡しをする研究を続けてきました。特にうつ病や認知症、高次脳機能障害の病態メカニズムを解明し、それに基づいて革新的で先進的な治療技法を考案しようと日々努力してきたつもりです。私の精神・神経疾患に対する治療アプローチは一言で言うと「損なわれたものではなく、保たれている機能を活かす」というものです。このような姿勢は失語症の回復過程における大脳右半球の役割の検討や、健忘症であっても障害を免れる記憶があること、さらにその保たれている潜在記憶を誤りなし学習として記憶のリハビリテーションに活用していくことなどに示されています。最近では、未来に起こる出来事を前向きに捉えることが困難なうつ病患者のネガティブバイアスを認知行動療法で改善し、その際に内側前頭前野（ブロードマン10野）の働きが改善することを機能的MRI研究で見出しています。また、私のいまの関心領域は精神疾患を有する病者の問題にとどまらず、健常者の幸福度の増進や生活の質の向上につなげるポジティブ精神医学へと拡大してきています。

私はこれまで、さまざまな異なる立場の人々の間の連携を図り、異領域融合的な新たなムーブメントとしていくことに注力してきました。何かと対立しがちで、それぞれの立場や権利の主張に終わってしまうことの多いアカデミズムの中で、私は歩み寄りと協調を何よりも大切に感じています。精神科診療においては、他科の医師や看護師、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、ソーシャルワーカーなど、さまざまな連携が重要です。今回の受賞も、もとより私個人の力ではなく、これら多職種の仲間のおかげです。さらに、多くの教室員、共同研究者、そしてさまざまな臨床研究にご協力いただいた患者さんとご家族にこの場を借りて感謝申し上げます。

福澤賞・義塾賞の受賞者たち

秋の叙勲 受章者一覧

藍綬褒章

相澤　好治（内50回）
〈労災医員功績〉
厚生労働省中央労災医員
北里大学医学部衛生学名誉教授
（公社）全国労働衛生団体連合会会長
（一社）産業保健協議会理事長

瑞宝中綬章

深井　志摩夫（外49回）
〈保健衛生功労〉
元（独）国立病院機構茨城東病院長
元　慶應義塾大学医学部外科学（呼吸器）客員教授

瑞宝小綬章

木実谷　哲史（児56回）
〈社会福祉功労〉
島田療育センター名誉院長
日本重症心身障害学会会長

瑞宝双光章

勝見　裕介（耳48回）
〈学校保健功労〉
学校医
勝見耳鼻咽喉科医院院長

瑞宝小綬章

松原　四郎（神経内科51回）
〈保健衛生功労〉
元　東京都立神経病院長
元　慶應義塾大学医学部内科学（神経）講師（非常勤）

信濃町を中心とした慶應義塾のイノベーションの取り組みとアンケート実施について

日本の財政悪化の主因である社会保障費の増加は、高齢化に加えて、新型コロナウイルス感染症の流行・ワクチンの輸入でさらなる加速を続けている。国民皆保険制度の上に成り立つ医療に従事する我々としては無視することができない深刻な課題であるが、海外の大学発ベンチャーにシェアを奪われる新薬・新医療機器に歯止めがかからない。医薬品・医療機器の貿易赤字は年間3兆円を突破しており、次世代の経済成長を担うイノベーション企業の創出が大学の急務となっている。岸田政権も本年をスタートアップ元年と位置づけ、創薬ベンチャーを中心に一兆円を超えるこれまでは考えられなかった予算が付き本気度が伺える。

慶應義塾では、イノベーション推進本部を設置し、信濃町を中心に、臨床研究推進センター、医科学研究連携推進センター、健康医療ベンチャー大賞、修士課程医科学専攻アントレプレナー育成コース、JST SCORE事業イノベーションデザイン・プラットフォーム（IdP）、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」、COI-NEXT共創の場形成支援プログラム『誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点』など、多くのイノベーションを推進する組織やプロジェクトが立ち上っている。

こういった義塾のイノベーションの取組みに対する教職員・塾生の認知度や起業意識調査を目的として過去二回医学部ではアンケートが実施されており、この度これを全塾に拡大した起業意識調査アンケートがイノベーション推進本部が主体となり実施される（QRコード、実施期間は12月16日～1月11日を予定）。当本部には、学生向けの起業家教育、教育・研究の成果を活用したスタートアップの創出支援・成長支援を行うことを目的にスタートアップ部門が昨年新設されている。二月号では過去の医学部でのアンケート結果も踏まえ結果を掲載予定のため、ぜひアンケートにご協力いただければ幸いである。

（堅田侑作　眼89回）

起業意識調査アンケートQRコード

慶應義塾大学病院　年末年始の休診

年末年始は、12月30日（金）より1月4日（水）の間、休診となります。

病院長

「医学部新年祝賀式」および「坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金に基づく慶應医学賞 ライジング・スター賞授賞式」の開催について（ご案内）

医学部長　金井　隆典

医学部では毎年新春に教職員および三四会員による祝賀式を催しておりますが、この度、新年祝賀式を下記により開催することにいたしました。今年度も、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、関係者のみで執り行い、式典の様子はオンライン［ZOOM］で配信いたします。以下よりご参加賜りますようご案内申し上げます。

なお、本祝賀式と併せ「坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金に基づく慶應医学賞 ライジング・スター賞授賞式」を執り行います。

記

日　時　2023年1月5日(木)11時から12時30分
ウェビナーID　894 5002 3379
配信URL　https://keio-univ.zoom.us/j/89450023379
※下のQRコードからもご視聴いただけます

慶應義塾医学部三四会員専用の保険のご案内

勤務医師賠償責任保険
日本国内で行う医療業務に起因する患者の身体に障害が保険期間中に発見された場合に法律上の損害賠償責任を補償する保険
2023年度より20%割引
＊QRコードからパンフレットご確認下さい。

産業医等活動保険
法令等で定められた産業医、健康管理医、学校等の職務活動を対象として補償する保険
＊QRコードからパンフレットご確認下さい。

団体総合生活保険
4つの補償
■所得補償
■医療補償
■がん補償
■傷害補償
＋
4つのオプション
■個人賠償
■弁護士費用
■携行品
■ホールインワン
＊QRコードからパンフレットご確認下さい。

慶應学術事業会
各種保険をご案内しております。
弊社ホームページ下記QRコードよりお問い合わせ先もしくはお電話にてお気軽にお問い合わせください。

株式会社慶應学術事業会　e-mail:hoken@keioae.com tel:03-3453-3846（塾内線 22486）
弊社は慶應義塾出資の子会社であり、慶應義塾全体の施設管理や丸の内に於ける社会人講座（慶應丸の内ｼﾃｨｷｬﾝﾊﾟｽ）の他、本団体制度を始めとした慶應義塾全体の保険業務を担っております。
弊社は慶應義塾医学部三四会員の皆様が安心して医療活動に専念できるよう保険を通じて安心をお届けできればと考えております。
「QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です」
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社　22-TC05760　2022年10月作成

Keio University Medical Science Fund
2023年度坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金
医学研究助成事業募集

1．目的
慶應義塾大学医学部における医学・生命科学の各領域の研究を推進し、その振興をはかる

2．対象者（区分Aは(1)~(4)、区分Bは(4)を対象とする）
（1）本大学医学部専任教員
（本大学医学部または関連病院・研究施設に勤務し、本大学医学部に在籍する専修医・助教も含む）
（2）本大学医学部特任教員（研究員を含む、ただし訪問研究員、共同研究員を除く）
（3）本大学病院研修医、本大学大学院医学研究科（博士課程・修士課程）在籍者
（4）医学部4・5・6年次在籍者
＊2023年4月1日時点で満40歳未満の者（ライフイベント等の考慮すべき事情がある場合はこの限りではない、申請書「11.備考欄」に記載のこと）※女性研究者の積極的な応募を期待する
＊2023年4月1日時点（予定）の職位（常勤・非常勤は不問）・学年で記載する
＊2023年4月1日~2024年3月31日において、本助成金の対象者(上記(1)~(4))である見込みの者
＊1人につき1課題、前年度区分Aでの採択者は申請不可(区分Bでの採択者は申請可)
＊大学院生、医学部生の場合は研究を行っている教室の教授からの推薦状を添えること

3．助成の要件
慶應義塾大学医学部の将来的発展のために特に振興すべき研究であること

4．研究助成金の予定額及び件数
区分A：最高採択額 300万円 6～7件程度（予定）
区分B：最高採択額 25万円 4～8件程度（予定）
＊区分Aと区分Bの併願は不可
＊採択者は、学内で行われる公開セミナーでの研究報告会に参加すること（2024年2月中旬～3月上旬予定）
＊この助成金は、消耗品費、旅費、その他経費等に使用可能
＊研究期間は最長2023年度末（2024年3月末）迄
＊助成金額の決定は、絶対的評価ではなく、申請状況全体を勘案しての相対的評価とする

5．結果通知　2023年3月下旬迄に申請者あてに通知する

締切　2023年1月19日（木）正午
申請方法　・医学振興基金ホームページから募集要項を確認のうえ、所定様式の申請書をダウンロード、オンラインフォームに入力、必要書類をアップロードして提出してください。
・大学院生・学部生は、教授からの推薦状(書式自由)、学生証(両面)の写しもアップロードしてください。

問合せ：詳細は下記の医学振興基金HP掲載の募集要項、申請書をご確認ください。
https://www.ms-fund.keio.ac.jp/josei
医学振興基金事務室（信濃町キャンパス2号館8階）
E-mail：k-msf@adst.keio.ac.jp　電話：03-5363-3609　内線：62377

鑑知来

情報戦とは、味方の情報及び情報システムを防護し、かつ敵の情報及び情報システムを攻撃・攪乱・妨害する敵味方相互の情報活動である。外務省は2023年度予算の概算要求で情報戦への対応を強化する方針を示した。ウクライナ情勢に関し、正誤判断の難しい多くの情報がインターネット上で流れるなどしていることから、人工知能（AI）を活用した国際情勢の分析能力強化に関して予算を拡充する方針という。

様々な情報が飛び交う情報化社会においては情報量だけではなく、情報の質や正確性が重要であり、獲得した情報にどのような意味があるか分析することが大切といえる。情報の収集・分析は古くから重視され、孫子や織田信長もその重要性を認識し戦略的に生きたことが知られている。

近年の情報化社会では、医学の分野においてもビッグデータに関わる新技術やデータサイエンスの飛躍的な発展に伴い、多くの知見が見出されている。例えば、がんゲノム医療の導入により個々の疾患における遺伝子変異などが同定され、最適な個別化医療が実現しつつある。また、深層学習によるAI研究の進歩には目覚ましいものがあり、種々の領域において新規診断法や治療法の開発が進められており、今後臨床現場への利用も増々進んでいくものと考えられる。

一方で、心理学的な「病は気から」を前向きに活用することで、健康が増進し寿命が延びることを示唆する研究成果も多く報告されており、これらは病気に苦しむ人に直接向き合いその人そのものを診ることの大切さを物語っているともいえる。今後認知科学における人と人の心がどのように通じているかを解き明かす更なる研究成果にも期待したいが、やはり膨大な情報解析・新技術の革新的な進歩と伝統的な心と心の通じ合う医療とのマリアージュが患者にとって最善の医療を実現するのかもしれない。

（東京慈恵会医科大学病理学講座　下田将之　79回）